

プログラム番号	09007
---------	-------

平成21年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	千葉大学 大学院工学研究科		
②学長名	齋藤 康		
③所在地	〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	千葉大学 工学部 大学院学務グループ 主任	
	担当者氏名	奥田 聡子	e-mailアドレス pad3885@office.chiba-u.jp
	電話・FAX番号	TEL 043-290-3887 FAX 043-290-3888	
⑤ホームページURL	http://www.chiba-u.ac.jp/, http://www.eng.chiba-u.ac.jp/index.tsv		
⑥大学院在学留学生数	546人 (うち、国費留学生 114人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	グローバル・高度デザイン教育プログラム
②プログラムの形態	博士前期課程(2年間) + 博士後期課程(3年間)
③交流形態・受入体制	プログラム実施大学が単数
④実施研究科・専攻	工学研究科 デザイン科学専攻
	(所在地) 〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33
⑤連携大学・研究科・専攻名	なし
⑥受入れ学生数	16人 (うち研究留学生優先配置人数: 修士1人、博士2人) (うち日本人学生数: 0人)
⑦担当教員数	合計 10人 (うち専任: 6人、兼担: 0人、非常勤: 4人)
⑧研究科長(代表者)名	所属部局・職名 工学研究科・教授
	研究科長名 野口 博

【3. プログラムの内容】

○開設の趣旨

本プログラムは、現在、千葉大学大学院工学研究科デザイン科学専攻が行っている、サービス・デザインとプロダクト・デザインの両方の知識を有した研究者の育成において、外国人留学生を積極的に受け入れるために、「グローバル・高度デザイン教育プログラムーグローバル・サービス&プロダクト・デザイン・プログラム(通称GSPD Global Service and Product Design Program)」として開設するものである。

本プログラムは、学部時代にデザインを勉強し、大学院において高度なデザインに関する知識を獲得可能な人材を対象に、実践型の演習授業(スタジオ・ワーク)を中心としたプログラムで構築されており、現在は博士前期課程に20名、博士後期課程に6名が在籍している。このうち留学生は、博士前期課程6名(うち3名が国費留学生)、博士後期課程5名(うち2名が国費留学生)となっている。現在でも留学希望の学生が6名(前期4〜6名、後期2〜4名)以上存在している。この理由は、本プログラムが、他の国には存在しない独創的なプログラムであることと、大学院にありながら実践型演習・研究プログラムであることにより問い合わせが後を絶たない。このような中で極めて優秀な学生、特に自国の大学院に存在していながら千葉大学で学位の取得を希望するダブル・ディグリーを目指す学生もおり、このような学生を優先的に獲得し、修了後には日本の企業や研究機関、および教育機関で継続的な研究を行う人材の育成を目指し開設する。なお、本プログラムでは、千葉大学の工学研究科デザイン科学専攻が獲得しているアジア人財資金構想「グローバルアジア・デザインスクール・プログラム」も一部の授業でリンクしている。

千葉大学は、現在900名近い留学生が在籍している。大学の中期計画では、留学生30万人計画を受けて今後5年間以内に留学生を2,000人にする計画としている。一方で、デザイン科学専攻は現在100人近い留学生が在籍している。これは千葉大学に在籍する留学生の10%を超えており、世界に冠たるデザイン教育に国内外の様々な国や地域から学生が来ていることを物語っている。この大学の1つのコア・コンピタンスであるデザインをよりいっそう推進し今以上に留学生を受け入れることでさらに世界的な地位を不動なものにしたいと考え設置に至った。

サービス&プロダクト・デザインとは(例:航空サービス)



○教育・指導体制(論文指導等サポート体制)

本プログラムの母体となる、サービス&プロダクト・デザイン・プログラム(SPD)は、2005年から2年間の試行期間を経て2007年より本格的に運営しているプログラムである。SPDは、4つの特徴的なプログラムから成り立っている。GSPDにおいてもこの4つのプログラムを推進する。

- サービス&プロダクト・プログラム(サービス・サイエンスとサービス・ビジネス)の講義
 - サービス・デザイン論
 - デザイン・エンジニアリング論(修士)
 - サービス・デザイン・ストラテジー
 - デザイン・ソリューション・プランニング(博士)
- スタジオワーク(演習・研究)・プログラム
 - サービスとプロダクトに関する問題点を抽出⇒解決案を提案する演習・研究型プログラム
- 産学連携+インターンシップ・プログラム(課題持込み型インターンシップ チーム型)
 - 産学連携とインターンシップを同時に行うOJT教育型実践的教育プログラム
 - 博士後期の学生=プロジェクトマネージャー 博士前期の学生=プロジェクトメンバー

4. スタジオワーク(研究)・プログラム(研究を主体としたプログラム)

- 研究室に配属するのではなく、全員が同一スタジオに所属
- 専門の異なる複数の指導教員が指導
- 学生同士のディスカッションや教員間の連携を活性化

さらにこれにGSPDでは、以下の国際比較と新たなシステムの構築を实践する。したがってGSPDは、5つの特徴的なプログラムを有することになる。

5. GSPDシステム構築プログラム

- ATMシステムの比較とグローバルシステムの構築
- 駅切符発券改札システムの比較とグローバルシステムの構築
- デジタルサイネージシステムの比較とグローバルシステムの構築

これらの情報は整備されていないこともさることながら世界的な勢力地図(日本の企業がどの国までシステム導入実績があるか)も把握できていないため統合的に把握する。

このように、本プログラムは、スタジオ・ワークの教育・指導体制を構築したプログラムである。従来の研究指導のように、1つの研究室に属し、1名あるいは2名の主指導教員のもとで研究するのではなく、本プログラムに属する学生は全員が同じスタジオに在籍している。これにより、プログラムの専任の教員6名およびサービス&プロダクト・デザインの専門の知識を有した企業からの非常勤講師4名全員で教育および研究の指導を行う。またこれ以外にも、産学連携研究員3名(うち外国人1名)が指導を行っているため、様々な視点から研究に関する討議が頻繁に行われる環境となっている。また、本プログラムにおける修了要件は博士前期課程が40単位(通常30単位)、博士後期課程が20単位(通常14単位)と通常の修了要件より多い単位数を要求している。これは、通常の講義にプログラム受講生には必修となっているスタジオ・ワーク(演習型授業および研究)がプラスされているためである。このように、スタジオ・ワークを主体にすることで、教員と学生のコンタクトアワーも増加し、強力な指導体制を実現している。

